

岐阜県立可児工業高等学校

学 校 長 西垣 幸司

学校住所 可児市中恵土 2358-1 電話 0574-62-1185

- 1 **会議の名称** 平成29年度可児工業高等学校 学校評議員会 (第2回)
- 2 **会議の構成**

委 員	加藤 喜雄	可児市中恵土自治連合会会長
	亀谷 実記	元PTA役員
	佐合 英巳	元PTA役員
	豊吉 常晃	可児市立図書館長
	中村 茂	可児市下恵土自治連合会会長
	(委員名 五十音順)	
学 校 側	西垣 幸司	校長
	有賀 昭人	教頭
	長尾 久志	事務長
	水野 茂之	教諭(教務主任)
	柴田 純孝	教諭(生徒指導部長)
	加藤 正康	教諭(特活部長)
	玉置 輝久	教諭(進路指導部長)
	宮田 忠夫	教諭(工業部長)
- 3 **会議の目的** 岐阜県立可児工業高等学校の教育方針・重点及び学校課題を説明し、幅広い意見・提言を受け本校教育の改善・充実に資するとともに、開かれた魅力ある学校づくりを推進する。
- 4 **会議の開催** 平成30年1月19日(金) 10:00~12:00 可児工業高等学校校長室
委員5名、学校側7名、計12名が出席
- 5 **会議の概要**
 - (1) 校長あいさつ
 - (2) 出席者紹介
 - (3) 各分掌より今年度の取組と成果について説明
 - (4) 化学技術科課題研究発表会見学
 - (5) 意見交流(本校教育への提言・意見等)
 - (6) お礼の言葉
- 6 **会議の内容・提言等**
 - (1) 校長あいさつ

第2回学校評議員会の参加ありがとうございます。これまでは生徒の命に関わる事案は発生しておりません。本校の教育目標は、「地域から期待される工業技術者の育成」でありますが、年度末に向けて、各方面から生徒の活躍の報告を聞くことができています。特にものづくりコンテスト県大会で素晴らしい成果をあげることができました。生徒とともに職員もよく頑張ってくれました。

今日的課題として、少子化に伴う定員確保があります。魅力ある工業教育を展開する必要があるとともに中学生やその保護者に対してアピールしていきたいと考えています。また、在校生についてももしっかり進路実現できるように指導していかなければならないと考えています。学校評議員のみなさんには、忌憚のないご意見をお願いします。

(2) 各分掌より今年度の取組と成果について説明

教務部

- ・チャレンジタイムを導入して3年目になるが、年々落ち着いて取り組めるようになってきた。
- ・学校ホームページを積極的に活用し最新情報を常にアップしている。今年度女子の生徒の活躍もあり、女子をアピールするホームページを作成した。
- ・今年度デジタルサイネージを2台設置し、生徒向けの連絡や、外来の方へもアピールできるようにした。
- ・若手教員を中心にICTを活用した授業の手法が進んできた。
- ・学校評価のアンケート結果から、95%の生徒が本校に入学してよかったと回答している。

生徒指導部

- ・多くの生徒が本校卒業後就職をして社会人となる。遅刻をしないなど、規則をしっかり守るということを念頭に置いて指導している。
- ・今年度、学校全体の遅刻数が増えてきた。多遅刻者への指導にしっかりと取り組みたい。
- ・MSリーダーズや部の協力で、毎朝学校近辺の横断歩道や校門で交通安全指導をしており、地域や警察署から評価を頂いている。
- ・アンケート等を利用していじめの把握に努めている。からかいの事案を把握したので、いじめと判断し担任・科と連携し即座に対応することができた。

特活部

- ・「ACTIVATION ～活動の活性化～」をテーマとし、生徒会活動を進めてきた。
- ・防災リーダーとともに、通学路にあるアンダーパスについて調査を行った。
- ・卒業後、使わなくなった上・下靴をコートジボワールに送る活動を行っており、今年で4年目となる。
- ・女子生徒もマネージャーではなくて選手として活動できる運動系部活動があるので、少子化の中、女子生徒の選択肢が増えるように配慮している。

進路指導部

- ・今年度75.4%の生徒が就職を、23.6%の生徒が進学を希望した。
- ・求人状況は大変好調で、求人倍率は10.1倍であった。県内就職者の割合は58.6%であるが就業場所でなく、求人票に記載された会社の所在地でカウントされるので、実際の県内就職の割合はもう少し高くなる。
- ・就職試験に落ちた生徒の理由としては、面接で元気がなかったなどがあったので、今後の指導では気をつけていきたい。

工業部

- ・地域の公民館との地域連携、可児市役所との連携で様々なイベントに参加し高い評価を頂いた。今後も継続していきたい。
- ・熟練マイスターの指導により、高度な技能を得る機会を持つことができた。県ものづくりコンテストでは、4部門で東海大会の出場権を得ることができた。
- ・大学、専門学校と連携し、講演会や各種セミナーを行った。
- ・少子化による高校改革の流れを冷静に把握しつつ、地域の特性を生かした可児工の在り方を検討していきたい。

(3) 化学技術科課題研究発表会見学

化学技術科内で行われた「課題研究発表会」を約30分(2テーマ)の発表を見学した。

(4) 協議 「本校の教育活動に関する感想と提言」

提言1：毎年公民館まつりにボランティアとして多くの生徒さんに協力頂いている。大変助

かっているので、是非来年度もお願いしたい。

提言 2 : 課題研究発表会を見学させて頂いた。以前は「ア－ラ」を会場にして全校発表を行い、保護者も見学ができたと思う。生徒だけの発表では緊張感がなくなってしまうのではないか。

提言 3 : 可児工業が新聞に掲載されるのを楽しみにしている。今後も頑張ってもらいたい。

提言 4 : 保護者にとって、生徒がどのような勉強をして、どんな高校生活を送っているのかは興味のあるところだと思う。参観日など設定したらどうか。

提言 5 : オーストラリア研修の感想の中に、「自分の人生が変わるくらいの体験であった」とあるが、この体験を他の生徒にも伝える必要がある。

提言 6 : 先生たちが熱心に生徒をして頂いていることが理解できた。日常の学校生活を送る中で生徒はもちろん先生たちも成長して頂いて、これからの教育活動にあたって欲しい。

提言 7 : 入学後の生徒の満足度が 95%ということで、先生たちの努力だと思う。就職状況もよいようだが、是非地元で就職して貢献できる生徒を育てて欲しい。文化祭で地元企業のブースを設置されたことは、大変よいことだと思う。

提言 8 : ものづくりのおもしろさ、楽しさを伝えて欲しい。

(5) お礼の言葉

本日は貴重な意見を賜りましてありがとうございました。本校は多くの生徒が卒業後、就職をして社会人となるので、マナーや規則についても厳しく指導をしていますが、外部から見た意見は大変貴重であり、我々も気づかされることが多々あります。

学校も社会の変化に応じて改革を求められています。引き続きご意見を頂きたいと思えます。今後ともよろしくお願ひします。